様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第１学年 第２学年 第３学年	国語・730 国語・830 国語・930	伝え合う言葉　中学国語１ 伝え合う言葉　中学国語２ 伝え合う言葉　中学国語３

取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　話すこと・聞くこと 第１学年では、事実と意見を区別して報告をしたり、自分の考えとの共通点や相違点を整理したりする活動、第２学年では、構成や展開を考えてプレゼンテーションをしたり、司会や提案者の役割を考えて討論をしたりする活動、第３学年では、条件や場に適した表現を工夫して思い出をスピーチしたり、どのような発言がよいかを考えて話し合ったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　書くこと 第１学年では、構成を考えて随筆を書いたり、構成を工夫して案内文を作成したりする活動、第２学年では、構成を工夫して新聞の投書記事を書いたり、心情が効果的に伝わるように工夫して物語を書いたりする活動、第３学年では、文章の構成を選択して広告を批評する文章を書いたり、中学校で書いた作品を集め文章の形態などを工夫してまとめたりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　読むこと 第１学年では、登場人物の心情の変化をとらえたり、文章の構成や表現の特徴をとらえたりする活動、第２学年では、描写の効果や登場人物の言動に着目して作品を読み深めたり、疑問に思ったことを調べたりする活動、第３学年では、場面や登場人物の設定、構成や展開に着目して文学作品を批評したり、自分の意見をもち文章を読み比べたりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 第１学年では、歴史的仮名遣いに注意しながら古文をノートに書く活動や、音声の仕組みについて理解を深める活動、第２学年では、古人のものの見方や考え方に触れながら随筆を読む活動や、話し言葉と書き言葉の違いを理解する活動、第３学年では、歴史的背景などを理解しながら和歌を読む活動や、慣用句・ことわざ・四字熟語などに関する知識を広げる活動が取り上げられている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 「ここが大事」において、第１学年では、考え方を広げたり、場面の構成や展開に注意したりすること、第２学年では、題名やキーワードに着目して文章を読んだり、文章の全体と部分の関係に着目したりすること、第３学年では、文章を読み比べて評価したり、場面や登場人物の設定に着目したりすることなど、学習したことを振り返り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動が取り上げられている。
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第１学年では、日常生活を題材にして段落の役割や全体の構成を考えて随筆を書く活動の後に、意見文を友達と読み合いよさを見つけ合う活動を取り扱い、第２学年では、話題や方向を捉えて話し合う活動（第１学年）の後に、司会や提案者を立て話し合う活動（第２学年）を取り扱い、第３学年では、根拠を明確にした意見文を書く活動（第２学年）の後に、図表などの資料から読み取ったことを示して説得力のある意見文を書く活動（第３学年）を取り扱うなど、系統的、発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 第１学年～「話すこと・聞くこと」は５教材、「書くこと」は６教材、「読むこと」は19教材であり、総ページ数は336ページで、前回より約11%増となっている。 第２学年～「話すこと・聞くこと」は５教材、「書くこと」は５教材、「読むこと」は17教材であり、総ページ数は348ページで、前回より約10%増となっている。 第３学年～「話すこと・聞くこと」は５教材、「書くこと」は５教材、「読むこと」は19教材であり、総ページ数は348ページで、前回より約9%増となっている。
使用上の配慮等	○　日常生活や社会生活に生きて働く言語能力を身に付けることができるよう、「学びのチャレンジ」を掲載したり（全学年）、読書に親しむ態度を養うことができるよう、「読んでみよう」などを掲載したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　学び方を確かめることができるよう、学習の進め方や重点を示した「みちしるべ」を設けたり（全学年）、見通しをもって学習することができるよう、「読むこと」領域の読解のポイントを示した「ここが大事」を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がなされている。 ○　巻頭に身に付けさせたい言葉の力と教科書の構成を掲載して単元ごとに学習する内容を示したり（全学年）、巻末に補充的な作品や情報収集の方法を示した付録「言葉の自習室」を掲載したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○　北海道と関連のある教材は「近代の短歌」「文化としての科学技術」など４箇所取り上げられている。 ○　小学校国語で学んだことを中学校国語の導入単元として位置付けたり、高等学校国語でよく取り上げられる作者や筆者を取り上げたりするなど、小学校及び高等学校国語との関連が図られている。 ○　色覚等の特性を踏まえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字となっており、カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応を踏まえたつくりになっている。